

# ゆらゆら

Japan Aseismic Safety Organization

耐震総合安全機構 広報 第51号



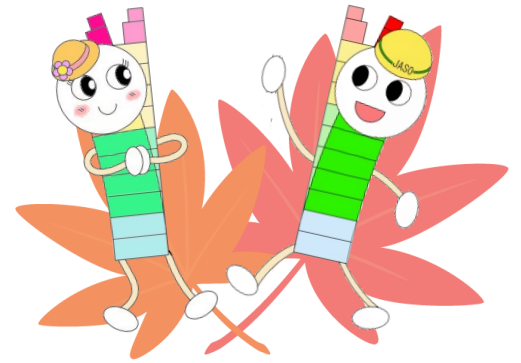
特定非営利活動法人  
耐震総合安全機構

東京都文京区音羽1-20-16 PAL音羽ビル7階  
TEL 03-6912-0772 FAX 03-6912-0773  
E-mail info@jaso.jp https://www.jaso.jp

作成：耐震総合安全機構 広報委員会

発行日：2023年10月31日（年2回発行）

## JASO 2023年 通常総会報告



去る6月9日、日中友好会館ホールにて、通常総会を開催しました。コロナウイルスの感染拡大防止策により前3回の総会はWeb方式で行っておりましたが、今年は久しぶりに対面開催、そして懇親会も行うことができました。

総会は、出席者数74名（本人出席37名、委任状33名、議決権行使書4通）で出席者数が正会員・指定会員総数の122名の1/2以上で成立いたしました。今回は、2022年度事業報告・決算の件（第1号議案、2号議案）のほか、役員を選任（第3号議案）があり、6名の理事と2名の監事の交代がありました。総会後に開催された理事会にて、理事長・副理事長が選任され、新理事長に山内哲理氏、副理事長には金健次氏（新任）、宮城秋治氏（新任）、江守芙実氏（再任）が就任しました。今年度は設立20周年（設立2003年9月、内閣府承認2004年1月）の年になります。会員の皆様とともに、さらなる活動の充実を図っていききたいと思います。

総会後の記念講演では、2022年度JASO賞の表彰および講演（森本伸輝氏）、新耐震建築物耐震性確認委員会の中間報告（山内哲理氏）、水害対策アドバイザー制度検討委員会の中間報告（伊藤正利氏）の3つの公演が行われました。



日中友好会館にて



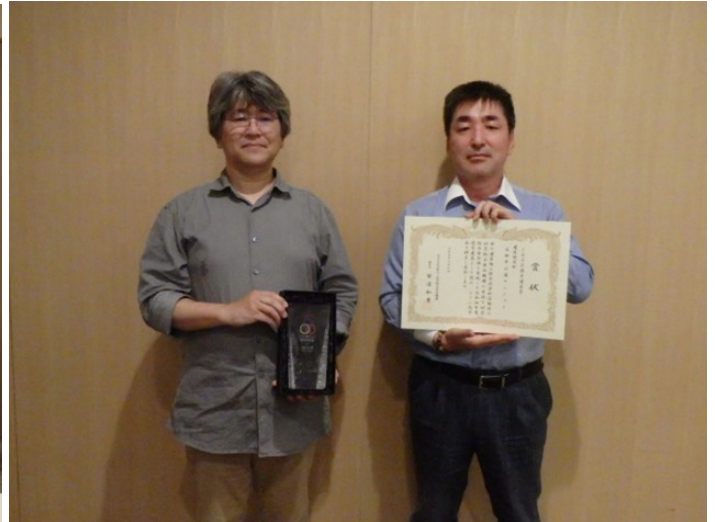
新理事長 山内哲理氏

### 目次

総会報告	1
臨時総会報告 新事務局体制の紹介	2
協力会総会報告 会員一覧	3
JASO賞報告	4 ～ 5
第18次東日本大震災 被害状況視察報告	6 ～ 7
セミナー報告 パンフレットご紹介	8



新理事のみなさん  
 (左から 足田尚人氏、河井修氏、金健次氏、  
 小橋良治氏、鈴木ひとみ氏、平野広氏)



新2022年度JASO賞優秀建築賞  
 (石神井公園マンション) の設計者  
 森本伸輝氏 (株モリモトアトリエ) と  
 岡田和広氏 (株耐震設計)

## 2023年度 臨時総会報告

8月25日、JASO本部にて、定款変更(役員  
 の任期の一部変更)と役員選任についての臨時総  
 会を行いました。出席者数100名(本人出席4  
 名、委任状21名、議決権行使書が75名)で出席  
 者が正会員・指定会員総数127名の1/2以上で  
 総会は成立いたしました。1号議案の定款の一部  
 変更は、役員選出をする総会開催日と役員任期満

了日に運用上のズレが生じることがあり、定款と  
 の齟齬をなくすために改訂したものです。

2号議案は、5月に他界された中村茂常務理事  
 の欠員を補うための役員選任です。賛成多数で谷  
 垣正治氏を選任し、総会後に行われた臨時理事会  
 にて、谷垣氏が常務理事に就任いたしました。

## あたらしいJASO事務局体制

### 常務理事(事務局長)ご紹介

谷垣正治

1956年神戸市生まれ。

早稲田大学大学院理工学研究科建設工学  
 専攻修了。

三井建設(株)技術研究所入社、2015~2021年  
 三井住友建設株式会社 技術研究所所長。

本年6月より、吉村憲一氏が事務局員として加  
 わりました。谷垣・大関・吉村の三名で事務局を  
 運営いたします。皆様のご協力、どうぞよろしく  
 お願いします。



(右) 谷垣正治氏 (常務理事)  
 (左) 吉村憲一氏 (事務局員)

## JASO協力会 総会報告

5月24日、久しぶりの対面形式でJASO協力会2023年総会が開催されました。

JASO安達和男理事長、JASO協力会担当役員、協力会10社、計22名が参加しました。

総会冒頭では、協力会担当理事が水上邦夫氏から平野広氏に変更になった旨の発表がありました。

2023年度の協力会役員体制については、新型コロナウイルスの影響により検討が遅れていた事もあり、再任が承認されました。役員体制については協力会役員会にて再度協議し、その後、次回総会での正式な決議を目指して、検討を行う予定です。協力会のメンバーからは、会則改正(役員任期・人数、役員会回数、会費等)に関する提案も出されました。これらについては今後の協力会役員会にて協議を実施してまいります。

今年度の協力会は活動の活性化を図るため、協力会役員会の開催や技術発表会の実施、そしてボジョレー会の再開などについて

報告させていただきました。

安達理事長からは「コロナ禍の状況が緩和されつつある中で、JASOへの仕事が増えている。協力会においても仕事の機会が増えることが期待される」と喜ばしい報告を述べられました。

矢幡秀介協力会副会長は協力会を代表して「ぜひ協力会として他のメンバーと一緒に仕事が出来たらよいと思う」と安達理事長に対し、お応えしました。

また、徳田精久協力会会長の挨拶では「困ったことに遭遇したあとに人は成長している。弱い者が連携しあって強者に勝つ。ライバルが仲間になる協力会を目指したい」という言葉がありました。

総会終了後の懇親会は場所を変えて20名の方が参加しました。久しぶりの対面での交流は、熱気ある雰囲気の中で行われ、楽しいひとときを過ごしました。

(建装工業(株) 安田真浩・米山和江)

## ～JASO協力会 会員一覧～

### 法人正会員

化研マテリアル(株) 建装工業(株) 三和アルミ工業(株) (株)シービーリサーチ (株)東京ソイルリサーチ  
ヤシマ工業(株) (株)リニューアルウィングス

### 法人賛助会員

(株)アイ・イー・エル (株)アイ・エス 青木あすなろ建設(株) アサヒボンド工業(株) (株)アミック  
(株)E&CS MUマテックス(株) エスケー化研(株) (株)エヌ・ワイ・ケイ (株)エフアイティー  
(株)小河原建設 (株)キーマン (株)ケー・エフ・シー 構造品質保証研究所(株) (株)ジャスト  
ジャパン・エンチニアリング(株) ショーボンド建設(株) 須賀工業(株) 積水アクアシステム(株)  
泉幸工業(株) (株)大塗 (株)田村工務店 中央(株) テラルテクノサービス(株) 東海ドア(株)  
(株)トーテック 中島建工(株) (株)日刊建設工業新聞 (株)日刊建設通信新聞社 富士テクノ(株)  
(株)ベン 矢作建設工業(株) リノ・ハピア(株) レッキス工業(株) (一社)レトロフィットジャパン協会  
(株)ロンビックジャパン (50音順 敬称略)

## 2022 JASO賞審査結果

## JASO 表彰審査委員会

2022年度のJASO賞は、コロナ下でもあり前年より1か月早めて、応募期間を7月下旬～10月末、審査期間を11月～2023年2月として行った。最終的には優秀建築賞への3点の応募があり、貢献実績賞への応募はなかった。優秀建築賞の応募内訳はマンションが2点と病院が1点であり、プレキャスト・プレストレストコンクリート(PC)架構を用いたアウトフレーム補強のマンション、外付け制震ブレースによるIs値0.4以上を目標とした段階補強のマンション、外付け耐震ブレースによる低層病院の3点を審査した。

審査結果は、「石神井公園マンション」を選定した。この建物は、アウトフレームにPC架構を採用し、北側廊下に外付けする計画とし、廊下の採光不足に対して手すりを透明にすることで解決している。この結果、耐力が高く部材数の少ないPCアウトフレームと透明手すりの効果によりすっきりした外観が得られている。プロジェクトとしては、相談開始から竣工までに5.5年を要し、管理組

合との共同作業により満足すべき成果が得られている。また、対震ドアへの変更を含む大規模改修と耐震改修が一体的に行われ、工事費としては修繕積立金・助成金・住宅金融支援機構融資に加えて居住者の負担金が発生したが、一部居住者の資金不足に対しては管理組合が協力して解決している。

惜しくも選からもれた「段階補強のマンション」については、難しい問題を解決し制震ブレースを用いた耐震補強により一歩を進めたことは評価できるが、現段階で段階補強をJASO賞とすることへの躊躇もあり選定から外れた。同じく選定からもれた「病院」では全体の改修工事の一環として耐震改修が行われ、患者が入院したままでの改修・補強工事の難しさを克服した点は評価できるが、全体には改修工事の比率が大きくJASO賞が耐震改修に重きを置いた賞であることから選定からはずれた。

(委員長 寺本隆幸)

## JASO 優秀建築賞2022 『石神井公園マンション』

耐震改修設計 建築：森本伸輝・構造：岡田和広

建物は西武池袋線石神井公園駅より徒歩5分、一般緊急輸送道路の富士街道沿いに建つ鉄筋コンクリート造7階建ての分譲マンションです。2015年2月に最初のAD派遣に伺い、同年9月に簡易診断を提出、耐震性が基準以下という結果を伝えました。その後、管理組合は長期的なマンションの運営を視野に建替えについての検討を約1年間行いましたが、事業的に困難と判断し、耐震化を進める

ことで総会の決議を取り、耐震化が動き始めました。

耐震診断が終わり補強計画に入ると、理事会の下部組織となる修繕委員会を発足し、長期間を要する耐震化に対応できる体制をつくり、具体的な検討がスタートしました。

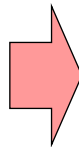
(次面へ続く)

補強案は精密診断完了時に作成したものをベースにバルコニー側と共用廊下側の両面にアウトフレームを設ける補強案で検討に入り、構面を縮小するなど検討の精度を高めて行きましたが、理事会と修繕委員会ではバルコニー側のアウトフレーム設置では総会の議決が取れないとの結論に至り、補強案の検討を繰り返す中、最終案に近い PC アウトフレームを共用廊下側に設ける補強案に至りました。

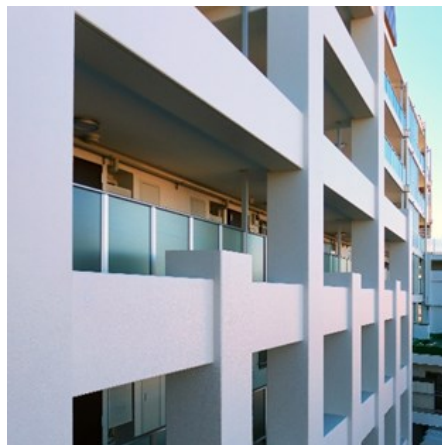
実施案は既存柱スパン毎に設置していた PC フレームの柱の間に、更に柱を 1 本ずつ増設し強度を増すことで、PC フレームの全体スパンを削減し、屋外鉄骨階段やキュービクルの移設が不要で杭の本数も削減できるなど、これまでのどの案より工事範囲が小さく、概算工事費も安い補強案が実施案となりました。

また長期修繕計画で予定していた大規模修繕の周期とほぼ一致したため、補強工事と大規模修繕工事を同時に実施する方針で設計図書をまとめることとなりました。構造の耐震化に加え、防災面での機能強化対策も設計に盛り込み、①発災時の避難、救護、復旧動線の確保(各戸玄関、管理人室、ポンプ室、EV 機械室など主要な扉の対震扉への更新)、②鉄部腐蝕部材の機能回復(避難階段や手摺など鉄部の地金出しによる塗装の更新、アルミ化など)、③精密診断時より指摘を受けている縦横比率の高い塔屋の上部解体、及び高架水槽撤去に伴う給水方式の変更なども実施しました。

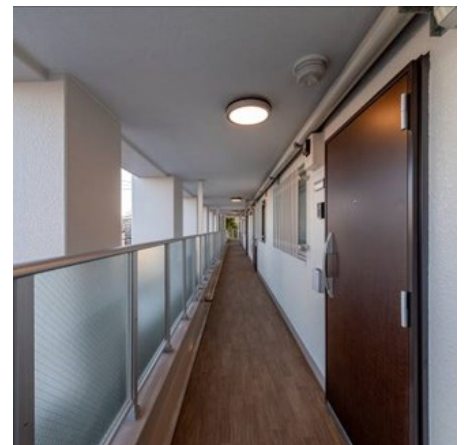
## 施工写真



PC アウトフレーム全景



PC アウトフレーム



外廊下 (対震扉・ガラス手摺)

## 東日本大震災 第18次被災復旧調査

2023年5月1日から2日の2日間に渡り、「東日本大震災」による被災地の復旧状況をJASO18次調査団メンバー（13名）で視察を行いました。

1日目は、岩手県盛岡駅から入り、宮古市、田野畑村、2日目は、野田村、久慈市、八戸市を調査しました。今回の調査は主に“震災遺構”の状況確認を行いました。どの場所も復興が進んで綺麗な状態で、遺構や資料、震災経験をされた方からのお話を通して当時の状況を学びました。

### ①浄土ヶ浜ビジターセンター



ビジターセンターの被災時の写真が「レストハウス」に掲示されている。竣工1年後に被災し、その1年後には、復旧したようだ。

### ②震災メモリアルパーク中の浜



15mを超える津波により被害を受けたが、現在は、キャンプ場のトイレ、炊事場を震災遺構として保存した施設となっている。

### ③島越ふれあい公園



震災の津波により、流された旧島越駅舎跡地に整備された復興公園。

### ④震災遺構明戸海岸防潮堤



津波によって決壊した防潮堤が、被災当時の姿のまま保存されており、津波の破壊力の強さを感じた。

### ⑤北山崎展望台



高さ200mの断崖に奇岩怪石、大小さまざまな洞窟、海岸線が約8kmに渡り続く。

⑥ ホテル羅賀荘



宿泊施設。ホテルの仲居さんに被災当時のお話をお聞きした。

⑦ 野田村保健センター



野田村の津波による住宅の被害は約1/3に及び、37人の尊い命が奪われた。野田村保健センターは津波により全壊し、2017年に再建し、現在は、復興展示室で当時の被害状況、復興の足跡が展示されている。

⑧ 久慈地下水族科学館もぐらんぴあ



地下石油備蓄基地作業用トンネルを利用した水族館や石油備蓄などに関連する展示施設。

⑨ 館鼻公園



園内には、八戸市みなと体験学習館が湊地域の歴史・文化や東日本大震災の被害を伝える学習の場として2019年7月6日に開設された。災害時の防災機能も備えた施設であり、東日本大震災の実情や教訓を広く国内外及び次世代に伝承する「震災伝承施設」としても登録されている。

⑩ 蕪島神社



ウミネコの繁殖地として、全国的に知られており、約3万羽のウミネコが営巣のためにやってくる。その営巣の様子を間近で観察できる国内唯一の場所となっている。

((有)共同設計・五月社一級建築士事務所  
早川太史)

# 府中市 分譲マンション耐震化セミナー・個別相談会 「管理組合が知っておきたい耐震改修のポイント」

府中市では、昨年度に続き本年度も去る8月23日に府中市役所に於いてマンション耐震セミナーと個別相談会が開催され、JASOからは講師及び相談員として4名が派遣されました。セミナーは、府中市から3名、セミナー運営を担当して頂いた(株)首都圏総合研究所の2名で開催されました。

初めに、府中市都市整備部住宅課の課長より冒頭のあいさつがあり、その後、森本伸輝氏による講演が行われました。講演では3種類の補強事例を比較しながらの説明内容となっており、参加者の皆様は熱心に耳を傾けていました。また、参加者による質疑応答では、現在、抱えている問題について活発な意見があり、森本氏から一つひとつ丁寧な回答をして頂きました。

講習終了後は、府中市から分譲マンション耐震化助成制度の紹介があり、耐震アドバイザー派遣への費用助成、耐震診断への費用助成、補強設計への費用助成について説明がありました。また、

耐震診断・補強設計が単年度の場合に加えて、複数年度にわたる場合の助成制度についても全体設計の承認手続きを行えば可能ということでした。

セミナー終了後は3組の無料相談会の申し込みがあり、自主管理している相談者からは、早速、府中市の助成制度を利用して耐震診断を行いたいという要望もありました。

(教育・研修委員会 小橋良治)



## パンフレットのご紹介

### 耐震実例集 Vol. 3



JASOが実践するマンション耐震化の実例集の第3弾が出ました。編集はJASO建築担当連絡会幹事の森本伸輝氏で、表紙デザインも手掛けて頂きました。

### 高経年マンション耐震化のすすめ



JASOの「高経年マンション問題委員会」が作成協力を行った耐震パンフレットが公益財団法人マンション管理センターより10月に発行されました。